

提案団体名: 富士通株式会社

○提案内容

<p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙3の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください</p>	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>■技術 ブロックチェーン技術を応用したデータ流通・利活用プラットフォーム「Virtuora DX」</p> <p><概要> 各企業・組織に集積されているデータを、業種や業界を超えて安心・安全に共有し、データを活用した共創活動(新たなサービス創出など)を促進する商用SaaSプラットフォーム。</p> <p><ポイント> ①ブロックチェーンの応用による分散データアクセス制御技術「富士通VPX(Virtual Private digital eXchange)テクノロジー」により、データの実体は保有者の手元に置いたまま、データの概要情報のみ他者と共有し、必要な相手とのみ直接データを受け渡すことができる。 ②コンソーシアム(共通目的を持つ利用者同士の共創グループ)単位でデータ共有を行うことにより、信頼された相手とのみ安心してデータ共有ができる。 ③データを共有するだけでなく、データ同士の関連性を可視化するマップ(「キーグラフ」)や、利用者間のコミュニケーション機能(「トークルーム」)を備え、異業種間での共創活動を支援する。 ④東京大学 大澤研究室が開発した、データ概要情報の記述方法(「データジャケット」)や、データの関連性の可視化手法(「キーグラフ」)を搭載し、アイデア創出ワークショップと連動した一連のデータ活用プロセスを提供する。</p> <p><技術URL> http://www.fujitsu.com/jp/products/network/carrier-router/dataexchange/virtuora-dx/saas/</p> <p>■技術の実績 異業種データを活用した街づくりの実証実験(http://pr.fujitsu.com/jp/news/2018/05/14-2.html)</p>	(4)(5)
<p>(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください</p>	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>■解決する課題 企業・組織間の相互のデータ共有と利活用</p> <p>■課題の説明 都市機能を構成する多様な企業・組織が各事業に関わる貴重なデータを保有しているが、それらを、安心・安全かつ効率的に他社と共有する仕組みが無かったため、互いのデータを活用した共創活動(新サービスの創造など)が困難であった。そこで、前記技術を用いて、異なる企業同士がデータを活用したイノベーションに取り組めるようにする。</p> <p>①他企業・組織とデータ共有する際のセキュリティリスク →解決技術: 技術ポイント①②により、セキュリティリスクを削減する</p> <p>②データが取得可能になった場合も、共有されたデータの中身や用途が理解できず価値を判断することができない →解決方法: 技術ポイント③④により、データの価値の理解を容易にし、活用アイデア創出を支援する。</p> <p>■効果 異なる企業・組織のデータが取得可能となることで、都市・地域に、これまでにない新たなサービスが生まれ、人々の生活を豊かにしていく。</p>	(シ)
<p>(3) その他</p>	

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
ネットワークソリューション事業本部 サービスビジネス事業部	江尻 祐介	044-280-9844	ejiri.yusuke@jp.fujitsu.com